

# L - D e P S システム化の経緯

Logistics Delay Prevention System

物流遅延予防システム

指定された納品時間に対して、延着防止を目的として、該当車両に「出発・休憩・再出発・1時間前・到着・完了」の6点を電話で現在位置を確認し、その結果を運行管理表に手書きで記載していました。

電話連絡や手書き管理表では、話し中や担当者の引き継ぎ不備などから、運行状況の抜け漏れがあり、工数の割に遅延検知する事が難しく、品質が安定していませんでした。

品質向上と工数削減を実現し、延着防止の自動化を目標に、「スマートフォンのGPS機能を利用して、一定時間毎に位置情報を取得して指定された納品時間内にお届けできるか自動で判定するシステム」を導入したことで、より正確な状況を把握し、遅延兆候を正確に判定し、予防することを目指しました。

# L - D e P S システム化の経緯

Logistics Delay Prevention System

物流遅延予防システム

## システム導入前の課題まとめ

### 利用者

- 何回も電話する必要があるが、運転中の電話連絡ができない
- 自分の会社とメビウスの双方に連絡する必要があり手間がかかっている

### 管理者

- 24時間体制で管理対応
- 複数の管理者がおり、情報の抜け漏れにより、遅延の兆候が分からない

### 会社

- 通話料金と管理コストの増加
- 全拠点の運用の統一化と、業務の標準化がされていない

- ▶ 協力会社が多いため、スマートフォンの既存機能を利用したもの
- ▶ 利用者のプライバシー、少ない通信量で負担軽減に配慮したもの
- ▶ 操作は単純で、使いやすいもの

## 解決策

スマートフォンの位置情報を利用したアプリケーション  
「L - D e P S」を開発

# L - D e P S のしくみ

Logistics Delay Prevention System

物流遅延予防システム

出発から到着、納品完了までを一元的に管理します。  
納品時間を起点に、決められたタイミングで自動的に位置情報を取得し、到着時間を算出し、遅延の可能性を判断します。



3時間前

2時間前

1時間前

30分前

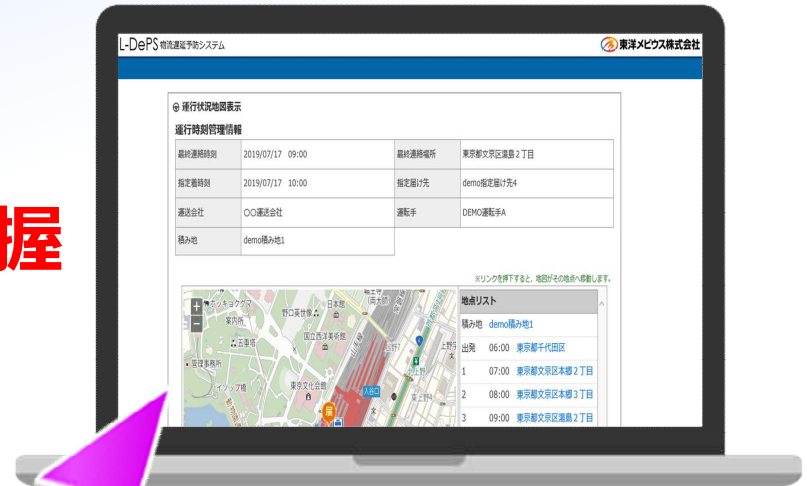
位置情報を推奨ルートを基に到着予測  
時間を算定し、遅延を判断します

# L-DePS のしくみ

Logistics Delay Prevention System  
物流遅延予防システム

運行詳細画面

## Point 1 運行状況の把握



車両管理画面



遅延と判断した場合  
・メール通知  
・画面表示(車両管理画面)で告知します。

## Point 2 遅延予知と警告

運転手に直接確認



管理者



# L-D e P S 導入後

Logistics Delay Prevention System

物流遅延予防システム

管理コスト

40%  
CUT

人件費、通信費などの管理コストを大きく削減

運用効率

UP  
↑

”遅延の可能性”検知時に警告（色分け）により安心感がある

作業効率

UP  
↑

どのP Cからも専用画面にアクセスでき、情報共有できる

管理品質

UP  
↑

管理表作成、運行が地図プロットされ管理が標準化